

平成21年(2009年)12月期 第2四半期決算

2009年8月6日



キリンホールディングス株式会社

《経営全般》

◆ マネジメントメッセージ

《決算概況 及び 業績見込み》

◆ 【連結】2009年第2四半期間実績・通期見込み

- ・業績の推移
- ・セグメント別：売上高、営業利益

◆ レビュー

- ・酒類セグメント(含む利益増減内容、以下同)
- ・飲料・食品セグメント
- ・医薬セグメント
- ・その他セグメント

◆ 2009年通期取り組み課題

- ・酒類セグメント(含む期初予想との差異、以下同)
 - ・飲料・食品セグメント
 - ・医薬セグメント
 - ・その他セグメント
-

《在外会社トピックス》（2009年第2四半期実績、通期見込み）

◆ ナショナルフーズ社 業績概況

◆ ライオンネイサン社 業績概況・取引進捗

◆ サンミゲル社 業績概況・取引進捗

《参考資料》

- ・医薬パイプライン
- ・のれん一覧表
- ・為替(豪ドル)インパクト

《補足資料（短信補足説明より）》

- ・損益状況（売上/費用明細）
 - ・貸借対照表増減内容
 - ・グループ連結財務指標
 - ・主な連結会社別損益(2009年第2四半期実績、通期見込み)
 - ・国内酒類/飲料売上明細
-

- ・計画を上回る第2四半期進捗
- ・「実行と質的拡大」～2010年中計策定は着実に進行

- 2009年度の位置づけ ⇒ 2007年中期経営計画の最終年度、かつ次期中計へのゼロ年度
- 2009年以降の経営テーマ ⇒ 「量的拡大 → 質的拡大」～環境変化に目先を変えることなく、
経営の意思でできる施策を中心に「実行の経営」
- 2009年第2四半期業績 ⇒ 《決算概要》 キリンビール社(ビール・発泡酒・新ジャンル出荷量3年ぶり
お客様支持率No.1)や豪ライオンネイサン社・ナショナルフーズ社の
好調等により**各利益は年初計画を達成、過去最高の経常利益を更新**
- 2009年通期見通し ⇒ 連結営業利益・経常利益・当期純利益を上方修正 (キリンビール社、
ライオンネイサン社、ナショナルフーズ社が売上・営業利益を上方修正)
- 2010年中計 ⇒ **KV2015実現に向けた「実行と質的拡大の中計」**(年内発表予定)
8つのクロスカンパニーチームによる課題解決等を前倒しで取り組み
- 海外M&A進捗 ⇒ ライオンネイサン社100%子会社化:10月株式取得完了見込み
サンミゲルビール社:5月株式取得、SMC社株式売却完了
- サントリー社との経営統合交渉 ⇒ 誠実かつスピーディに協議を進める

シナジー創出に向けた14の課題と取り組み①

- 最重点課題であるシナジー創出に向けた各課題への取り組みについては、予定通りの進捗
- シナジー創出を加速するため、グループ横断的・機能別にクロスカンパニチーム(CCT)を立ち上げて取組を強化する

国内外での総合飲料グループモデル構築

課題	2009年の取り組み	2009年2Q 進捗(年間目標)		
		売上シナジー	コストシナジー	CCT
国内酒類事業の販売チャネルの強化	KB-ME KB・KMD販売力を活用した業務用・量販市場におけるワイン販売協働取り組み(2009年1月より開始)	8億円 (20億円)	-	営業・マーケ
国内総合飲料製造・物流協働	KB-KBC場外倉庫の抑制、食品業界他社とのダンボール共同調達の継続展開等 KB-ME 配送拠点におけるカートン共有化	-	1.3億円 (2億円)	生産・物流
グループ販売力・チャネル機能強化	KB-KBC KB・KMDの販売力を活用した業務用市場における清涼飲料の売上拡大や自動販売機設置の拡大 グループシナジー商品の開発・販売(キリンフリー・淡麗W・氷結アペリティフ・淡麗ストレート)	KBC: 4億円 (8億円) KB: 128億円 (190億円)	-	営業・マーケ
日本・豪州における飲料事業推進	KBCとの連携による豪州におけるNFLの新商品開発力の強化と商品カテゴリー拡大	LN社完全子会社化に向けて契約締結 豪州総合飲料戦略も併行して策定中		-
豪州総合飲料事業推進	LNによるコカコーラアマティル社買収交渉の終了 →LNの完全子会社化			
アジア総合飲料事業推進	交渉中のビール事業会社への出資によるサンミゲルとの戦略提携強化を含め、KBC及びNFLの資源を活用したグループ戦略の策定(1Q)→実行	アジア総合飲料推進の基盤となるサンミゲルビール社の株式取得(48.3%)		-
中国事業の再構築	酒類事業と飲料事業の組織・戦略オペレーションの統合案の策定(事務所統合予定2Q、販売協働の実践)	事務所統合完了 組織統合に向けて検討中		-

KB: キリンビール、ME: メルシャン、KMD: キリンマーチャндаイジング、KBC: キリンビバレッジ、LN: ライオンネイサン、NFL: ナショナルフーズ

シナジー創出に向けた14の課題と取り組み②

	課題	2009年の取り組み	2009年2Q進捗(年間目標)		CCT
			売上シナジー	コストシナジー	
バリューチェーンのグループ最適化	購買取引額の一定規模の圧縮を目指したグループ内調達機能の高度化	KB・KBC社を中心としたグループでの調達コスト削減に向けた施策を推進する (原料・資材、設備・工事、ユーティリティ、広告・宣伝、営業・販売用資材、販促品、一般資材、車両用燃料、リース、役務提供、等)	-	2010年分を前倒し実施 ※年間見通し 16億円 (7億円)	調達
	グループの最適な生産・物流体制構築に向けた生産・物流コスト競争力の向上	グループ最適の観点からの生産・物流拠点の抜本的見直しを行い、中計策定と併せ、その内容とスケジュールを具体化させる。	グループ横断的・機能別のクロスカンパニーチーム(CCT)を立ち上げ、各課題解決に向けて取組強化。		生産・物流
	R&D組織要員体制と事業貢献につながるグループ技術力強化	効率的な拠点・組織要員体制を含んだグループR&D戦略の策定(3Q)→実行			研究開発
	グループ経営体制の高度化に向けたバックオフィス機能統合	本社機能の統合戦略(KBとKBCの本社ロケーション統合、KHとKBEの本社ロケーション統合)、KHの一部業務移管を随時実施			営業・マーケティング 生産・物流
	グループ経営力と組織運営能力の向上に向けた人事施策への取組み	①グループ基幹人材確定とマネジメント施策の検討 ②グループ会社間の人的交流機会の積極的創出 ③採用・評価・研修等を通じたグループ共通価値観(KIRIN WAY、多様性重視)の浸透・定着。			人事インフラ
その他	健康機能性食品事業の基盤構築とビジネスモデル構築	2010年のグループ横断商品上市に向けた準備の完了	2010年上市に向けて準備中		研究開発
	医薬事業統合加速	ESA製剤での売上シナジーの継続追求 研究所の再編等によるコストシナジー実現	8億円 (20億円)	11億円 (34億円)	-

上記CCT以外に、事業統合CCT、資産圧縮/CFマネジメントCCT、ITCCTの取組みも進行中

2009年 第2四半期決算概況
業績見込
【連結】

2009年第2四半期 決算総括 連結

●各利益とも年初計画を上回る順調な進捗

厳しい経営環境の下、主力の麒麟ビール社や豪ライオンネイサン社・ナショナルフーズ社の好調等により、各利益は年初計画を達成、**過去最高の売上高・経常利益を更新**

(億円)	09年第2四半期実績	前年比	増減	08年第2四半期実績	09年年初計画	達成率
売上高	10,604	+1.2%	+126	10,478	10,700	99.1%
営業利益	401	▲15.5%	▲74	475	360	111.6%
経常利益	563	+18.4%	+87	476	380	148.4%
四半期純利益	149	▲81.6%	▲662	811	100	149.6%

売上高

協和発酵麒麟社の連結、麒麟ビールの好調等により増加**(過去最高)**

営業利益

為替・会計制度変更*影響を除けば実質増益。化学・国内飲料が未達となったものの、麒麟ビール社・豪ナショナルフーズ社好調等により年初計画を上回る

*ビール製造設備の減価償却費耐用年数変更

経常利益

豪ドルの為替レートが回復し(08年期末62.61円、09年2Q末決算時77.85円)、為替差益が発生したこと等から大幅に増加**(過去最高益)**

四半期純利益

08年第2四半期に持分変動利益**が発生した影響等から減少

**協和発酵工業株式交換による

●営業・経常・当期純利益計画を上方修正

第2四半期までの業績と現在の事業環境を踏まえて以下の通り修正する

【キリンビール】 好調な販売を踏まえ売上・営業利益とも上方修正

【ライオンネイサン】 為替レート回復により売上・営業利益とも上方修正

【キリンビバレッジ】 年初販売計画との乖離が大きく、コスト削減を進めるものの、売上・営業利益ともに下方修正

【ナショナルフーズ】 為替レート回復とデアリーファーマーズ社との統合効果の進捗により売上・営業利益ともに上方修正

【協和発酵キリン】 医薬事業の好調により営業利益・経常利益を上方修正

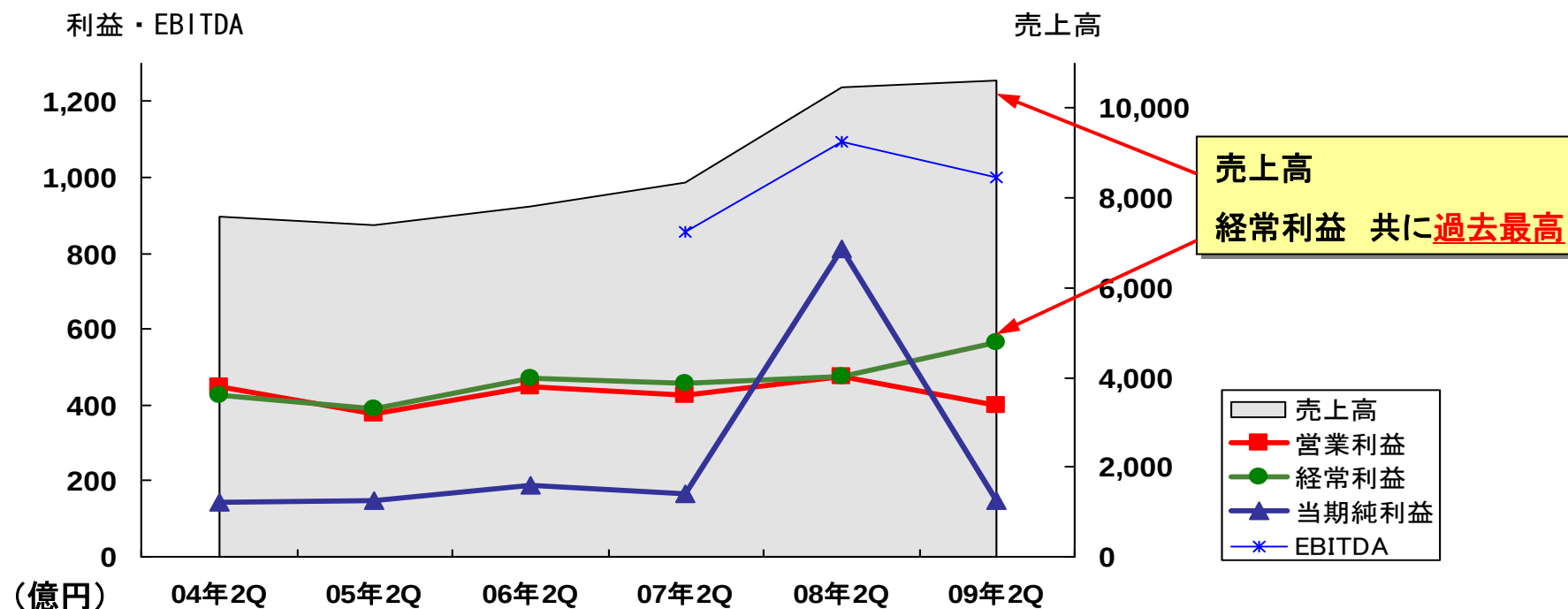
(億円)	09年通期見込 (期央修正)	08年実績	前年比	増減	09年計画 (年初)	今回 修正額
売上高	23,000	23,035	▲0.2%	▲35	23,000	—
営業利益	1,250	1,459	▲14.4%	▲209	1,210	+40
経常利益	1,360	1,030	+32.0%	+330	1,250	+110
当期純利益	600	801	▲25.2%	▲201	570	+30

第3四半期 以降の 取り組み

- ◆ 2009年基本方針 1. グループ内シナジーの創出 2. 国内酒類事業の再成長 3. 国内総合飲料グループ戦略の推進 4. 国際総合飲料グループ戦略の推進 を引き続き追求
- ◆ 各事業ごとの下半期の強化ポイントは後述

業績の推移（09年第2四半期実績）

連結

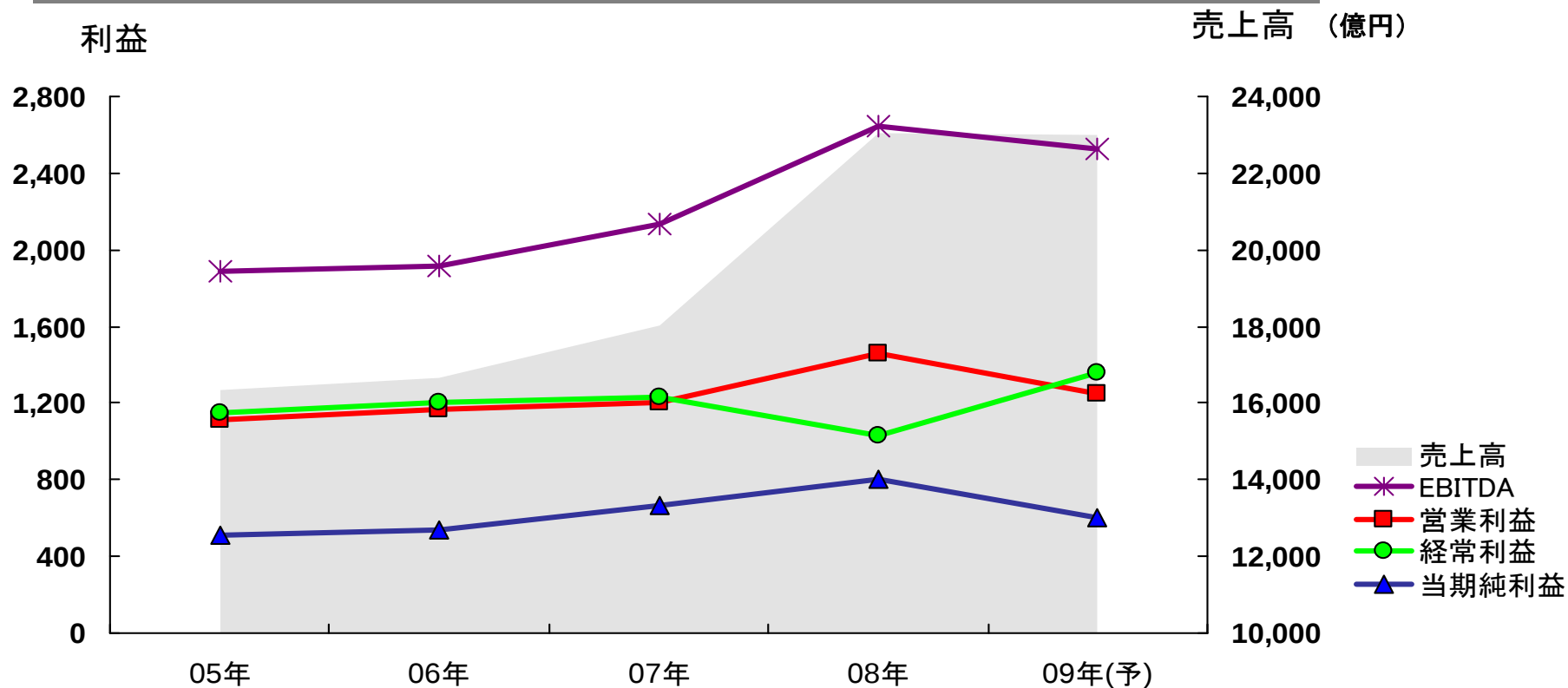


	04年2Q	05年2Q	06年2Q	07年2Q	08年2Q	09年2Q
売上高	7,594	7,402	7,827	8,360	10,478	10,604
営業利益	448	375	449	428	475	401
経常利益	424	390	471	456	476	563
四半期純利益	142	149	189	167	*811	149
EBITDA	—	—	—	857	1,093	905

*08年第2四半期純利益は協和発酵工業との株式交換により発生した持分変動利益(726億円)で大幅増

業績の推移(期央修正通期予想)

連結： 第2四半期までの好調を継続し、修正予想の達成を目指す。



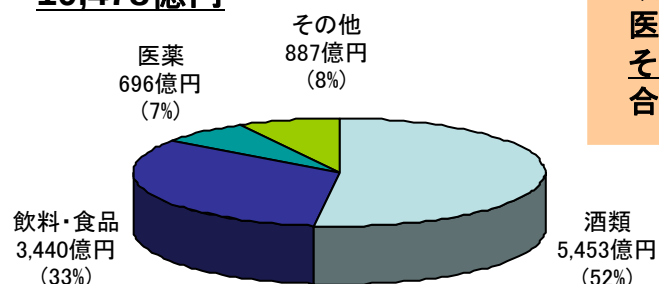
単位: 億円	05年	06年	07年	08年	09年予想
売上高	16,322	16,659	18,011	23,035	23,000
営業利益	1,117	1,163	1,206	1,459	1,250
経常利益	1,148	1,208	1,233	1,030	1,360
当期純利益	512	535	667	801	600
EBITDA	1,884	1,911	2,131	2,646	2,522

【連結】セグメント別売上高・営業利益（第2四半期）

■ 売上高 為替の影響等から酒類セグメントが減収も、それ以外のセグメントは着実に伸張した。

08年第2四半期

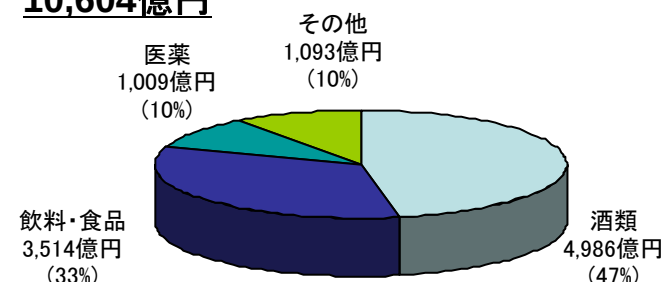
10,478億円



酒類: ▲467億円
飲料・食品: +74億円
医薬: +313億円
その他: +206億円
合計: +126億円

09年第2四半期

10,604億円

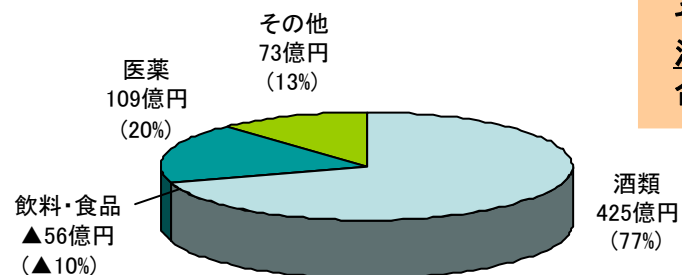


■ 営業利益 協和発酵キリン社の連結効果があったが、為替や景気悪化の影響を受けた。

08年第2四半期

475億円

(消去又は全社を除く: 551億円)

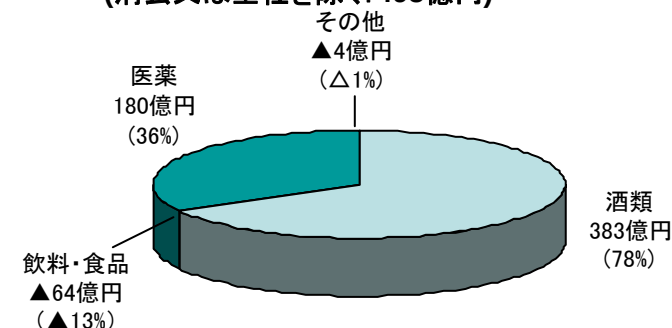


酒類: ▲42億円
飲料・食品: ▲8億円
医薬: +71億円
その他: ▲77億円
消去又は全社: ▲18億円
合計: ▲74億円

09年第2四半期

401億円

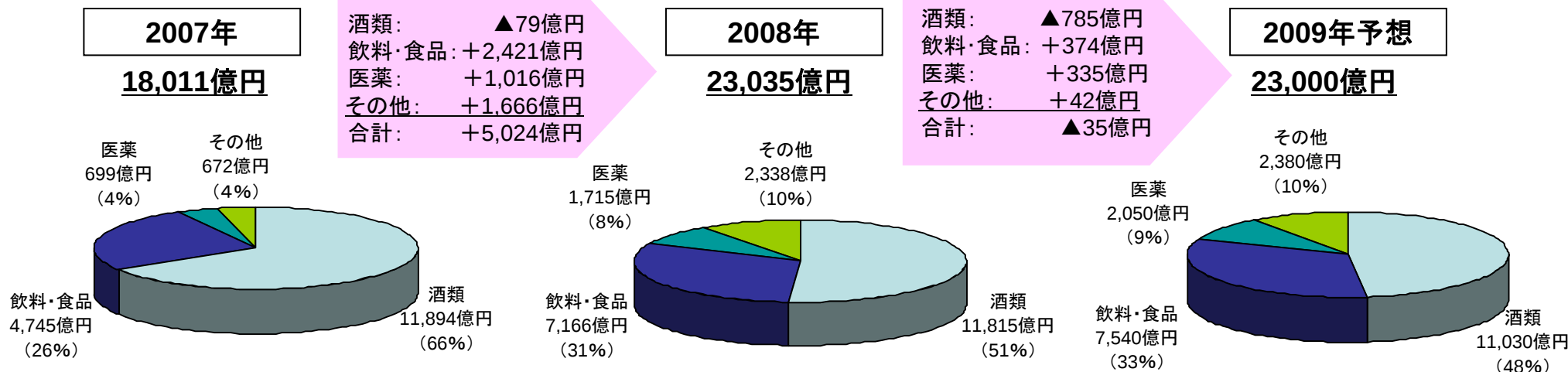
(消去又は全社を除く: 495億円)



セグメント別売上高・営業利益 (07年 ⇒ 08年 ⇒ 09年予想)

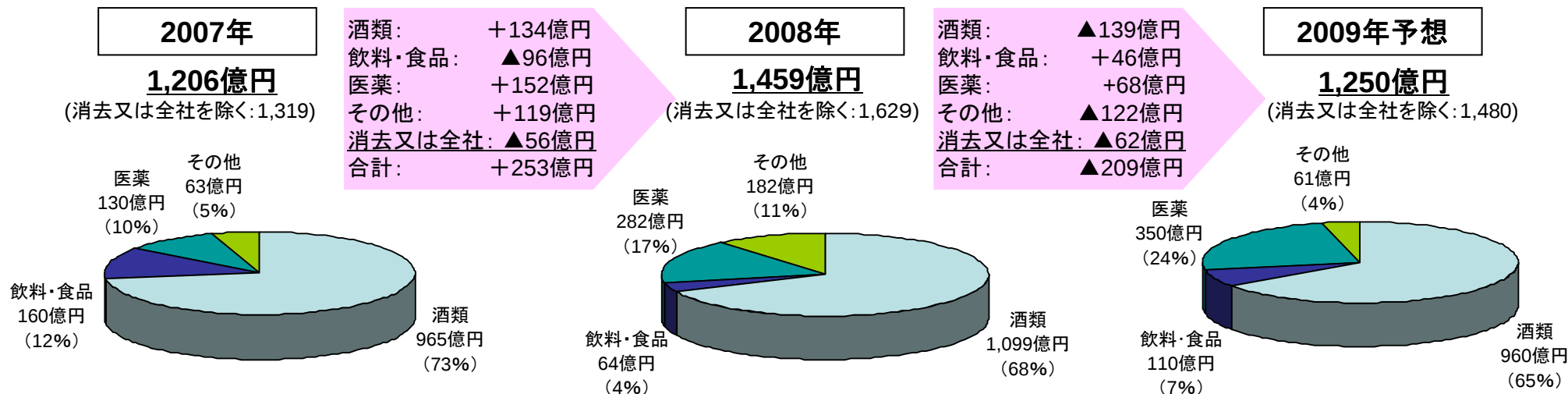
■ 売上高

飲料・食品、医薬、その他セグメントの成長により酒類セグメント売上構成比が減少へ。



■ 営業利益

飲料・食品、医薬セグメントが伸びた一方、酒類、その他セグメントが為替や景気悪化の影響から減少。



A red 3D rectangular block with a slight shadow on the bottom and right sides, giving it a three-dimensional appearance. It is centered horizontally and vertically on the page.

2009年上半期
セグメント別レビュー

酒類セグメント:2009年第2四半期実績

酒類

(単位:億円)	09年第2四半期 実績	08年第2四半期 実績	前年比	増減
連結売上高	4,986	5,453	▲8.6%	▲467
連結営業利益	383	425	▲9.8%	▲42

営業利益は
全社・消去前

国内

【麒麟ビール社】

- ・一番搾りリニューアルの成功
- ・麒麟フリーの大ヒット
- ・好調な定番ブランド(のどごし生・淡麗)
⇒ 3年ぶりお客様支持率No.1*
*ビール・発泡酒・新ジャンル上半期課税数量出荷ベース
- ・販促費・広告費削減は順調に進捗

【メルシャン社】

- ・デイリーワイン(家庭用及び一部業務用)好調 / 中高級価格帯ワイン厳しい展開 / ワイン事業では収益性の改善に成果

海外

【ライオンネイサン社】

- ・豪州マーケット環境: 他国に比べ相対的に景気悪化の影響少
- ・ビール事業好調(プレミアムシフト・高付加価値商品戦略順調に進捗)
- ・ジェイ・ボーグ・アンド・サン社連結効果あり

【中国・台湾】

- ・特に珠海エリアで景気悪化と競争激化(中国) / 市場低迷に苦しむも好調なBarビールを強化(台湾)

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	要因	差異	内容
麒麟ビール	酒類限界利益増	50	ビール販売数量減 △23千kl △26億 発泡酒販売数量減 △30千kl △30億 新ジャンル販売数量増 61千kl 65億 RTD販売数量増 8千kl 7億 焼酎・洋酒限界利益減 △1億 価格改定影響、品種構成による差異 他
	コストダウン	3	エネルギー削減 3億
	原材料コストアップ	△8	麦芽高 △7億、包装資材価格高 △7億、澱粉安 5億 他
	販売費減	26	販売促進費・広告費減 17億 (ビール・発泡酒・新ジャンル 13億、RTD 2億、 焼酎・洋酒 13億円 他)、運搬費減 10億 他
	その他費用増	△39	減価償却費増 △29億(うち耐用年数変更 △25億) 他
計		33	
ライオン ネイサン	営業利益減	△87	276億 → 189億
	のれん償却額	2	△24億 → △22億
	ブランド償却費	12	△36億 → △24億
計		△71	
メルシャン		0	△7億 → △7億
その他		△4	
計		△42	H20年度第2四半期 425 → H21年度第2四半期 383

飲料・食品セグメント:2009年第2四半期実績

飲料・食品

(単位:億円)	09年第2四半期 実績	08年第2四半期 実績	前年比	増減
連結売上高	3,514	3,440	+2.1%	74
連結営業利益	▲64	▲56	—	▲8

営業利益は
全社・消去前

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	要因	差異	内容
キリンビバレッジ	数量差異	△49	販売数量減 △436万ケース
	コストダウン	7	原材料コストダウン 他
	容器構成差異等	△10	販売促進費売上控除 △12億 他
	販売費減	23	販売促進費・広告費減 15億(売上控除 12億、新規連結の影響 △6億 他)、運搬費減 8億
	その他費用減	1	人件費増 △4億、旅費・通信費減 2億、販売機器費減 2億、新規連結の影響 △6億 他
計		△28	
ナショナルフーズ	営業利益増	16	1億 → 17億
	のれん償却額	3	△40億 → △37億 ※2
	ブランド償却費	3	△14億 → △11億 ※2
計		22	
その他		△2	
計		△8	H20年度第2四半期 △56 → H21年度第2四半期 △64

国内

【キリンビバレッジ社】

- ・基盤ブランド強化の取り組みで成果:
ファイア・午後の紅茶シリーズ好調
- ・量販チャネルの変動拡売費削減など収益性重視の活動に努めるも、販売数量前年比減(特に水・お茶)
⇒営業減益

【キリン協和フーズ社】

- ・4月1日の発足から順調なスタート

海外

【キリンビバレッジ社】

- ・ベトナム:エースコック株式会社との合併会社で本格的に事業スタート。ミルク系飲料販売開始
- ・中国競争激化

【ナショナルフーズ社】～予定を上回る増益～

- ・高騰していたミルクコスト安定化
- ・Dairy Farmers社との統合順調な進捗
- ・景気悪化から牛乳低価格品シフト/ 果汁飲料低迷

医薬セグメント:2009年第2四半期実績

医薬

(単位:億円)	09年第2四半期 実績	08年第2四半期 実績	前年比	増減
連結売上高	1,009	696	+44.8%	313
連結営業利益	180	109	+64.7%	71

営業利益は
全社・消去前

※08年4月から協和発酵社(10月～協和発酵キリン社)を連結。
前年比では2009年1月～3月分が上乘せされている。

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	71	売上総利益増 187億 研究開発費増 △0億 その他費用増 △102億 のれん償却額 △14億
計	71	H20年度第2四半期 109 → H21年度第2四半期 180

国内

【協和発酵キリン社】

営業:主力製品の売上好調。特にESA製剤は腎専任MRを作り透析施設への集中訪問や統合によるシナジー効果によりシェアを拡大
アレロック、パタノール、レグパラも堅調に推移

開発:ポテリジェント抗体KW-0761の国内Ph.IIを開始

ライセンス活動:サノフィ・アベンティス社と完全ヒト抗体「抗LIGHT抗体」の共同開発・販売等ライセンス契約を締結

海外

【協和発酵キリン社】

開発:多発性骨髄腫を対象としたポテリジェント抗体BIW-8962および末梢性T細胞リンパ腫を対象としたKW-0761は米国Ph.Iを開始
骨髄性白血病治療剤KW-2449、抗悪性腫瘍剤KRN330(完全ヒト抗体)の米国Ph.I/IIaを開始

その他セグメント:2009年第2四半期実績

その他

(単位:億円)	09年第2四半期 実績	08年第2四半期 実績	前年比	増減
連結売上高	1,093	887	+23.3%	206
連結営業利益	▲4	73	—	▲77

営業利益は
全社・消去前

主な利益増減内容 (09年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	△8	29億 → 21億
協和発酵キリン 化学品	△61	5億 → △56億
その他	△8	
計	△77	H20年度第2四半期 73 → H21年度第2四半期 △4

【協和発酵バイオ社】

・2008年4月からの連結のため売上高は大幅増収。欧州を中心に輸液用や医薬原料用アミノ酸の販売が堅調に推移。昨年秋以降の急激な円高の影響を受け営業利益は減益

【協和発酵ケミカル社】

・2008年4月からの連結のため売上高は増収も、昨年秋以降の世界的な景気後退による需要急減、原燃料価格急落による製品市況の低迷により、大幅減益

【アグリバイオ事業】

・欧州他海外事業が世界的景気減速により苦戦、国内事業ではコストダウンを推進

経常利益・当期純利益増減内容:2009年第2四半期実績

経常利益

	要因	差異	内容
営業外損益	金融収支	45	△87億 → △42億
	持分法による投資損益	8	サンミゲル △15億、協和発酵工業 12億(うち過年度投資差額償却額 10億) 他
	為替差益	109	55億 → 164億
	その他	△1	
計		161	
経常利益増		87	H20年度第2四半期 476 → H21年度第2四半期 563

当期純利益

	要因	差異	内容
特別損益	固定資産売却益	△95	
	投資有価証券売却益	224	
	固定資産売却損	△16	
	減損損失	△25	
	投資有価証券評価損	△17	
	関係会社株式売却損	△210	
	統合関連費用	△25	
	持分変動利益	△726	過年度協和発酵工業株式交換
	その他	△20	
計		△910	
法人税等及び 少数株主利益	法人税等	111	
	少数株主利益	51	
計		161	
第2四半期純利益減		△662	H20年度第2四半期 811 → H21年度第2四半期 149

2009年 通期
セグメント別 取組み課題

セグメント・主力事業会社別 下半期の強化ポイント

酒 類

【麒麟ビール】

- ・第2四半期までの好調な販売モメンタムの継続
- ・定番ブランド(一番搾り・のどごしく生)・淡麗)の継続的な販促と麒麟フリーの好調維持
- ・6月より麒麟・ディアジオ社の営業を開始。販売体制をより一層強化

【ライオンネイサン】

- ・第3四半期(2009年4月～2009年6月)も豪州を中心に販売好調。通期NPATガイド305 ～315A\$mを再確認
- ・2009年10月に完全子会社化予定

【メルシャン】

- ・麒麟ビール社との協働で好調なワイン販売を維持・収益改善も継続し実行 ～ワイン事業でのストロングNo.1を追求

飲 料 ・ 食 品

【麒麟ビバレッジ】

- ・収益向上に向けた取り組みの更なる徹底
- ・基盤ブランドの強化を通じたブランド価値向上

【ナショナルフーズ】

- ・原料価格の継続安定が見込まれる中、デアリーファーマーズ社との統合作業を一層推進

医 薬 ・ そ の 他

【協和発酵麒麟】

- ・引き続き主力製品の着実な伸長と、開発中の抗体医薬品の早期ステージアップを目指す

酒類セグメント:2009年通期見込み

酒類

(単位:億円)	09年期央見込み	09年期初見込み	08年実績	前年比	増減	期初との差異
連結売上高	11,030	10,950	11,815	▲6.6%	▲785億円	+80億円
連結営業利益	960	900	1,099	▲12.7%	▲139億円	+60億円

期初予想との 主な差異

- ・麒麟ビール社の好調な販売と原材料コストアップの改善
- ・豪ライオンネイサン社の為替レート見直し(通期予想 62.00円→70.00円)

修正前)主な利益増減内容 (09年期初予想年対08年)

会社名	要因	差異	内容
麒麟ビール	酒類限界利益増	21	ビール販売数量減 △65千kl △77億 発泡酒販売数量減 △21千kl △21億 新ジャンル販売数量増 74千kl 81億 RTD販売数量増 19千kl 19億 清涼発泡飲料増 8億 焼酎・洋酒限界利益増 2億 価格改定影響、品種構成による差異 他
	コストダウン	2	エネルギー削減 2億 他
	原材料コストアップ	△ 25	麦芽高、包装資材価格高 他
	販売費減	62	販売促進費・広告費減 49億 運搬費減 12億 他
	その他費用増	△ 117	減価償却費増 △68億 情報システム費増 △7億 電力料・燃料費増 △7億 他
計		△ 57	
ライオンネイサン		△ 142	為替差異 他
その他		0	メルシャン 12億 他
計		△ 199	H20年度実績 1,099 → H21年度予想 900

修正後)主な利益増減内容 (09年期央予想対08年)

会社名	要因	差異	内容
麒麟ビール	酒類限界利益増	43	ビール販売数量減 △46千kl △54億 発泡酒販売数量減 △66千kl △66億 新ジャンル販売数量増 100千kl 109億 RTD販売数量増 1千kl 3億 価格改定影響、品種構成による差異 他
	コストダウン	2	エネルギー削減 2億 他
	原材料コストアップ	0	麦芽高、包装資材価格高、ホップ価格安、澱粉安 他
	販売費減	66	販売促進費・広告費減 47億 運搬費減 18億 他
	その他費用増	△136	減価償却費増 △61億 人件費増 △19億 情報システム費増 △5億 他
計		△25	
ライオンネイサン		△111	為替差異 他
その他		△3	メルシャン 12億 他
計		△139	H20年度実績 1,099 → H21年度予想 960

飲料・食品セグメント:2009年通期見込み

飲料・食品

(単位:億円)	09年期中見込み	09年期中見込み	08年実績	前年比	増減	期初との差異
連結売上高	7,540	7,400	7,166	+5.2%	+374億円	+140億円
連結営業利益	110	120	64	+71.0%	+46億円	▲10億円

営業利益は全社・消去前

期初予想との 主な差異

- ・キリンビバレッジ社の数量減とそれに伴う販売促進費・広告費の削減
- ・豪ナショナルフーズ社のミルクコストアップの改善とデアリーファーマーズ社との順調な統合効果 / 為替レート見直し(通期予想(62.00円→73.00円))

修正前)主な利益増減内容 (09年期中予想年対08年)

会社名	要因	差異	内容
キリンビバレッジ	数量差異	64	販売数量増 585万ケース
	コストダウン	22	自工場製造効率アップ 他
	原材料コストアップ	△ 30	
	容器構成差異等	19	
	販売費増	△ 3	販売促進費・広告費増 △5億(新規連結の影響 △9億 他)、 運搬費減 2億 他
	その他費用増	△ 41	人件費増 △12億、研究開発費増 △6億、 自動販売機投入増に伴う減価償却費増・販売機器費増 △5億、 情報処理費増 △2億、新規連結の影響 △9億 他
計		31	
ナショナルフーズ	営業利益減	△ 17	81億→64億
	のれん償却額	4	△68億→△64億
	ブランド償却費	7	△27億→△20億
計		△ 6	
その他		31	
計		56	H20年度実績 64 → H21年度予想 120

修正後)主な利益増減内容 (09年期中予想対08年)

会社名	要因	差異	内容
キリンビバレッジ	数量差異	△ 58	販売数量減 △515万ケース
	コストダウン	25	原材料コストダウン 他
	容器構成差異等	△ 42	販売促進費売上控除 △38億 他
	販売費減	94	販売促進費・広告費減 78億(売上控除 38億、 新規連結の影響 △9億 他)、運搬費減 15億 他
	その他費用増	△ 17	人件費増 △7億、研究開発費増 △4億、 自販機投入増に伴う販売機器費・償却費増 △3億、 新規連結の影響 △6億 他
計		2	
ナショナルフーズ	営業利益増	19	81億→100億
	のれん償却額	△ 8	△68億→△76億
	ブランド償却費	4	△27億→△23億
計		14	
その他		30	
計		46	H20年度実績 64 → H21年度予想 110

医薬セグメント:2009年通期見込み

医薬

(単位:億円)	09年期央見込み	09年期初見込み	08年実績	前年比	増減	期初との差異
連結売上高	2,050	2,000	1,715	+19.5%	+335億円	+50億円
連結営業利益	350	280	282	+24.1%	+68億円	+70億円

期初予想との 主な差異

- ・主力製品好調(ESA製剤、アレロック、パタノール、レグパラ)による売上総利益増
- ・研究開発費を第2四半期までの実績を考慮し減額

修正前) 主な利益増減内容 (09年期初予想年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	△ 2	売上総利益増 163億 研究開発費増 △60億 その他費用増 △91億 のれん償却額 △14億
計	△ 2	H20年度実績 282 → H21年度予想 280

修正後) 主な利益増減内容 (09年期央予想対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン	68	売上総利益増 224億 研究開発費増 △34億 その他費用増 △108億 のれん償却額 △14億
計	68	H20年度実績 282 → H21年度予想 350

協和発酵キリン社トピックス

《国内》

営業:主力の貧血治療剤「ネスプ」「エスポー」、抗アレルギー剤「アレロック」、抗アレルギー点眼剤「パタノール」、二次性副甲状腺機能亢進症治療薬「レグパラ」等の着実な伸長を目指す

生産設備:治験用抗体製造設備を建設中

研究開発:開発中の抗体医薬品の早期ステージアップ、抗パーキンソン剤KW-6002のPh.Ⅲ開始

《海外》

・アジア現地法人での売上拡大 ・欧米・アジアなどでの開発を着実に進める ・アジア各国現地法人の統合シナジー創出

その他セグメント:2009年通期見込み

その他

(単位:億円)	09年期央見込み	09年期初見込み	08年実績	前年比	増減	期初との差異
連結売上高	2,380	2,650	2,338	+1.8%	+42億円	▲270億円
連結営業利益	60	130	182	▲67.2%	▲122億円	▲70億円

期初予想との 主な差異

・化学品事業でナフサ価格が計画を下回って推移したため、期初計画を下方修正

修正前) 主な利益増減内容 (09年期初予想年対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	△ 32	74億→42億
協和発酵キリン 化学品	△ 22	35億→13億
その他	2	
計	△ 52	H20年度実績 182 → H21年度予想 130

修正後) 主な利益増減内容 (09年期央予想対08年)

会社名	差異	内容
協和発酵キリン バイオケミカル	△27	74億→47億
協和発酵キリン 化学品	△80	35億→△45億
その他	△15	
	△122	H20年度実績 182 → H21年度予想 60

その他セグメント 主要会社トピックス

【協和発酵バイオ社】

・成長が見込まれる医薬・健康食品市場向けアミノ酸を中心に、引き続き拡販を図っていく

【協和発酵ケミカル社】

・事業環境は引き続き厳しい状況にあるものの、徐々にではあるが、回復基調を見込む。引き続き、既存主力製品の強化とともに、環境関連の機能性製品など、特徴のある新製品の創出で収益安定化を目指す

【アグリバイオ事業】

・国内種苗ビジネスに注力し、既存商品の見直しと新有力品種導入を促進する

経常利益・当期純利益増減内容：2009年通期見込み

経常利益

	要因	差異	内容
営業外損益	金融収支	39	△164億→△125億
	持分法による投資損益	△35	サンミゲル △45億(うち過年度株式売却に係る未実現利益消去 43億)、 サンミゲルビール 7億(うち投資差額償却額 △29億、 ブランド償却費 △7億)、協和発酵工業 12億(うち過年度投資差額償却額 10億)他
	為替差損益	530	
	その他	5	
計		539	
経常利益増		330	H20年度実績 1,030 → H21年度予想 1,360

当期純利益

特別損益	持分変動利益	△726	過年度協和発酵工業株式交換
	収用等補償金	△95	
	投資有価証券評価損	41	
	事業整理損失	27	
	その他	96	
計		△657	
法人税等及び	法人税等	139	
少数株主利益	少数株主利益	△13	
計		125	
当期純利益減		△201	H20年度実績 801 → H21年度予想 600

在外会社トピックス

ナショナルフーズ 2009年第2四半期決算

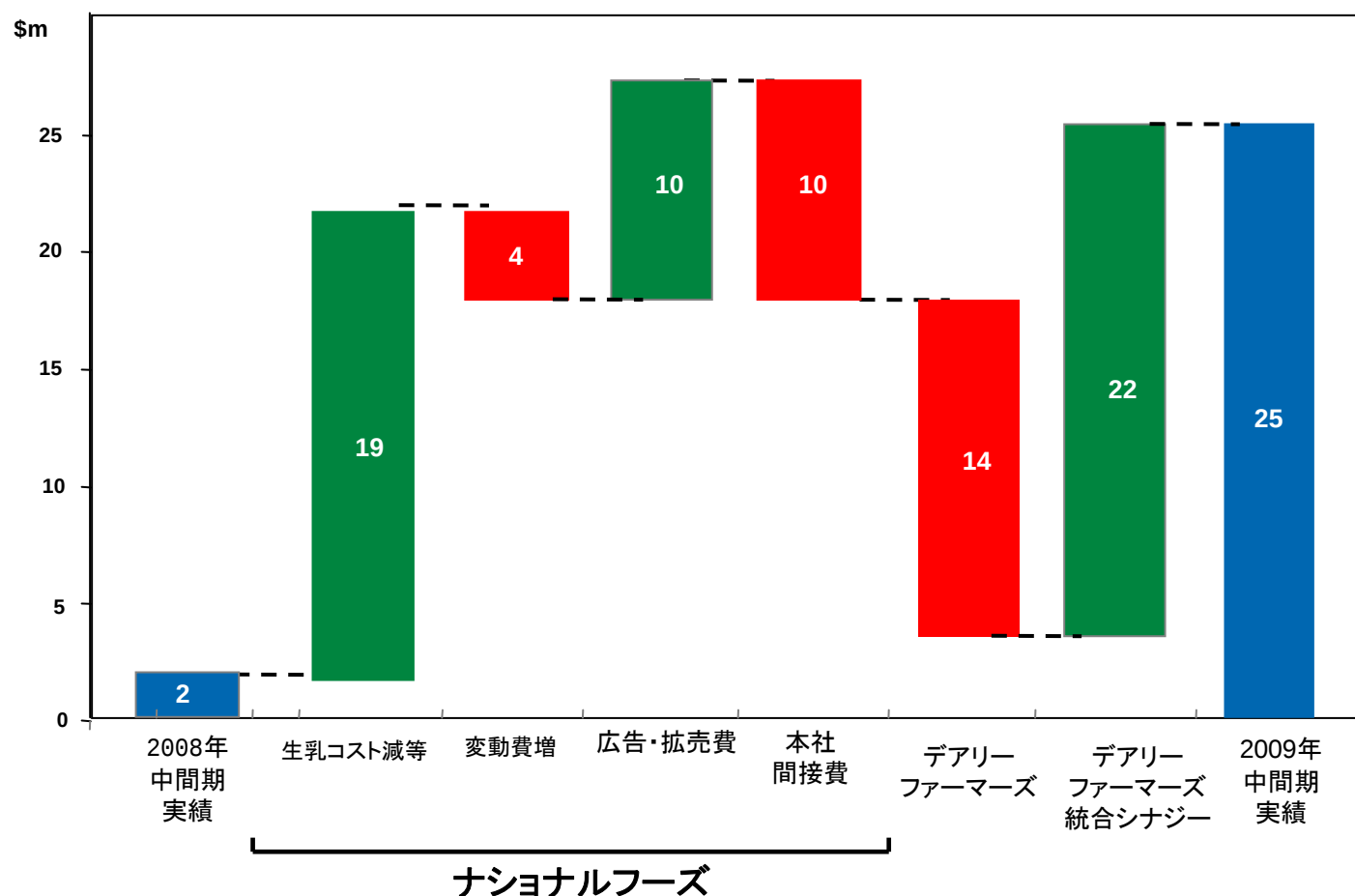
参考) 現地オペレーションベース

単位: 百万豪ドル	実績			予想		
	2008年 第2四半期	2009年 第2四半期	差異	2009年 期初通期予想	2009年 期央通期予想	差異
売上高	1,145	1,804	58%	3,487	3,523	36
EBIT (営業利益)	2	25	1150%	104	140	36
EBITDA (リストラコスト含む)	21	48	129%	142	178	36
償却費	19	37	95%	72	79	7
リストラ(統合)コスト	-	△14	-	△34	△41	△7

※リストラコストはEBITに含まない

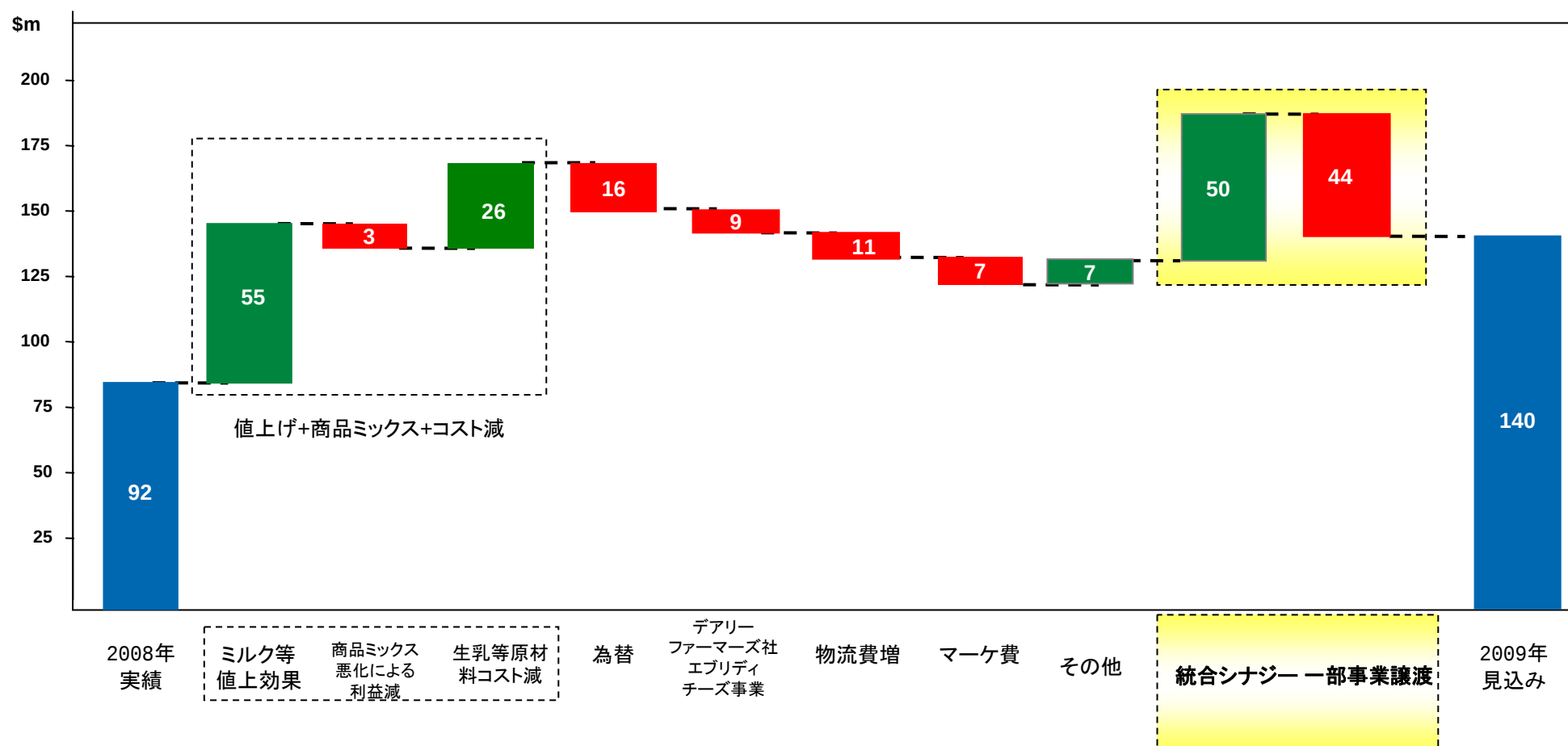
ナショナルフーズ 2009年第2四半期 営業利益(EBIT)増減分析

- 2008年以降の値上げ及び同下半期以降の生乳価格安定化が業績に寄与。
- 米ドル建て調達による濃縮果汁の為替の影響等によるマイナスの影響もあったがデアリーファーマーズ社との統合効果が大きく、前年同期比で大きなプラスとなった。

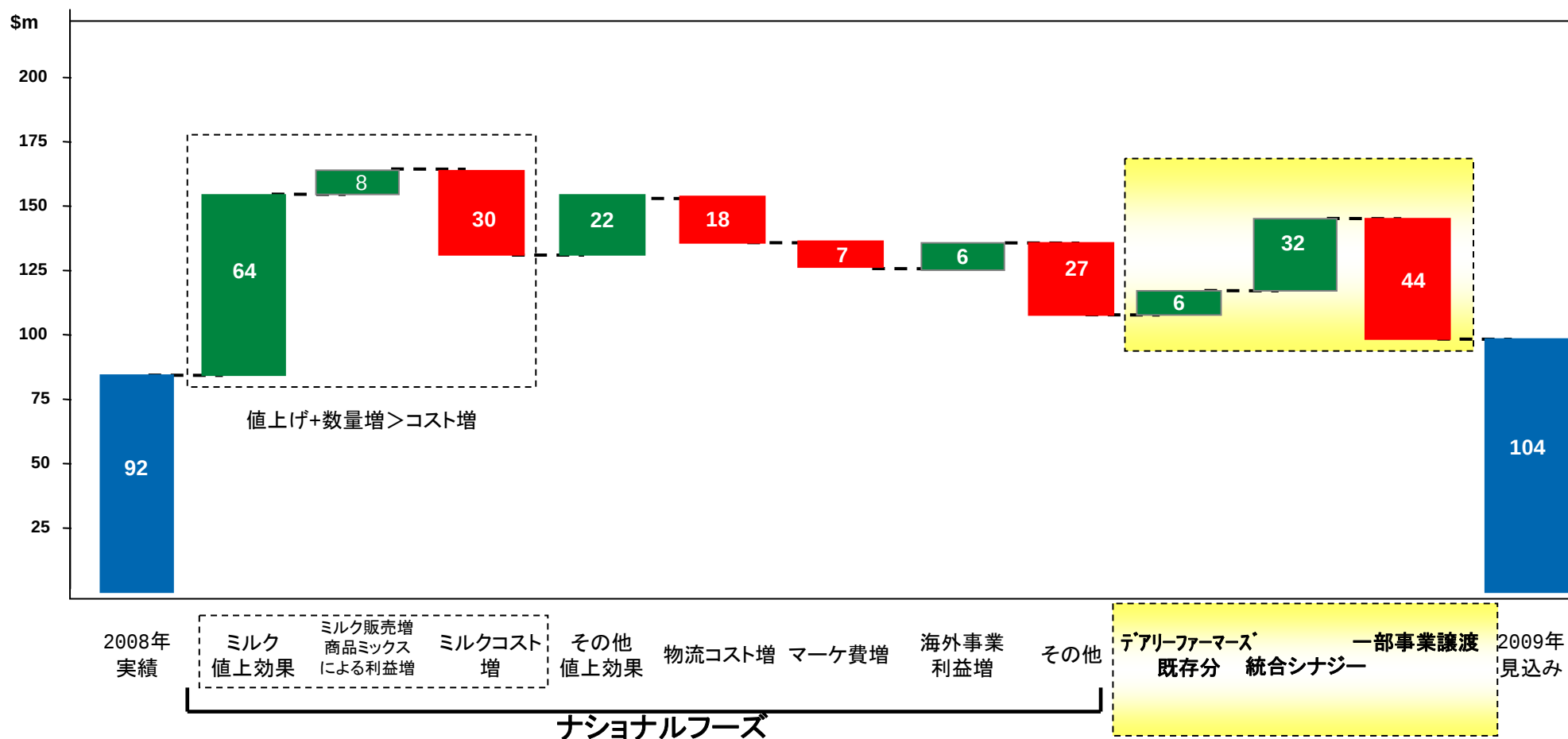


【修正見込み】営業利益(EBIT)増減分析：2008年実績 対 2009年修正見込み

- 2010年度(2009年7月～2010年6月)の生乳価格も期初通期予想に比較して低位安定的に推移することが予測される。
- 低価格商品へのシフトは続くものの、引き続き期初に計画した値上げの実施、期初通期予想を上回るデアリーファーマーズ社との統合シナジーの実現により、大幅な増益を図っていく。



- ミルクコストの高騰は収まりつつあるが、既に契約締結済みの原乳もあることから、ミルクコスト増A\$30M見込む。
- 上記に対して、「積極的な販促活動を通じたブランド強化」「NB、PBの値上げ」「海外事業の成長」などにより業績回復を目指す。



ナショナルフーズ(+DF社) 2009年第2四半期 セグメント別レビュー

	2009年 中間	2008年 中間	差	コメント
全体				単位: 販売数量 百万リットル、純売上高 A\$m (2008年 中間実績にはデアリーファーマーズ社を含まず)
販売数量	1,057	764	293	
純売上高	1,625	1,059	566	
ミルク				・引き続き過去のミルクコストの高騰を販売価格に転嫁すべく値上げを実施。 ・ただし、消費者の購買行動は低価格のPBにシフトし収益性が低下。 ・一方フレーバーミルクは好調。
販売数量	702	434	268	
純売上高	821	484	337	
果汁飲料				・採算性の低い量販店へのPB契約を整理した結果販売数量は低下。 ・引き続き価格競争が激しくシェアは低下傾向に歯止めがかかったものの、販促費用が高騰し、数量・売上・利益率が前年同期を下回る。
販売数量	196	232	-36	
純売上高	227	254	-27	
乳製品				・一部スーパーでの棚割り、競合との価格競争等の課題はあるものの、販売数量・売上とも目標達成。
販売数量	90	43	47	
純売上高	261	139	122	
チーズ 等				・引き続き消費者の購買が低価格にシフトしていることと一部製造工程改善にかかるコストのためにデアリーファーマーズ社のエブリディチーズ事業が不振。
販売数量	36	10	26	
純売上高	249	106	143	
海外およびニュージーランド				・ニュージーランドでミルク事業のJVを解消したため販売数量は減少した。 ・エブリディチーズ事業余剰在庫を海外に販売したため純売上高を押し下げた。
販売数量	31	42	-11	
純売上高	66	74	-8	

※管理会計ベース

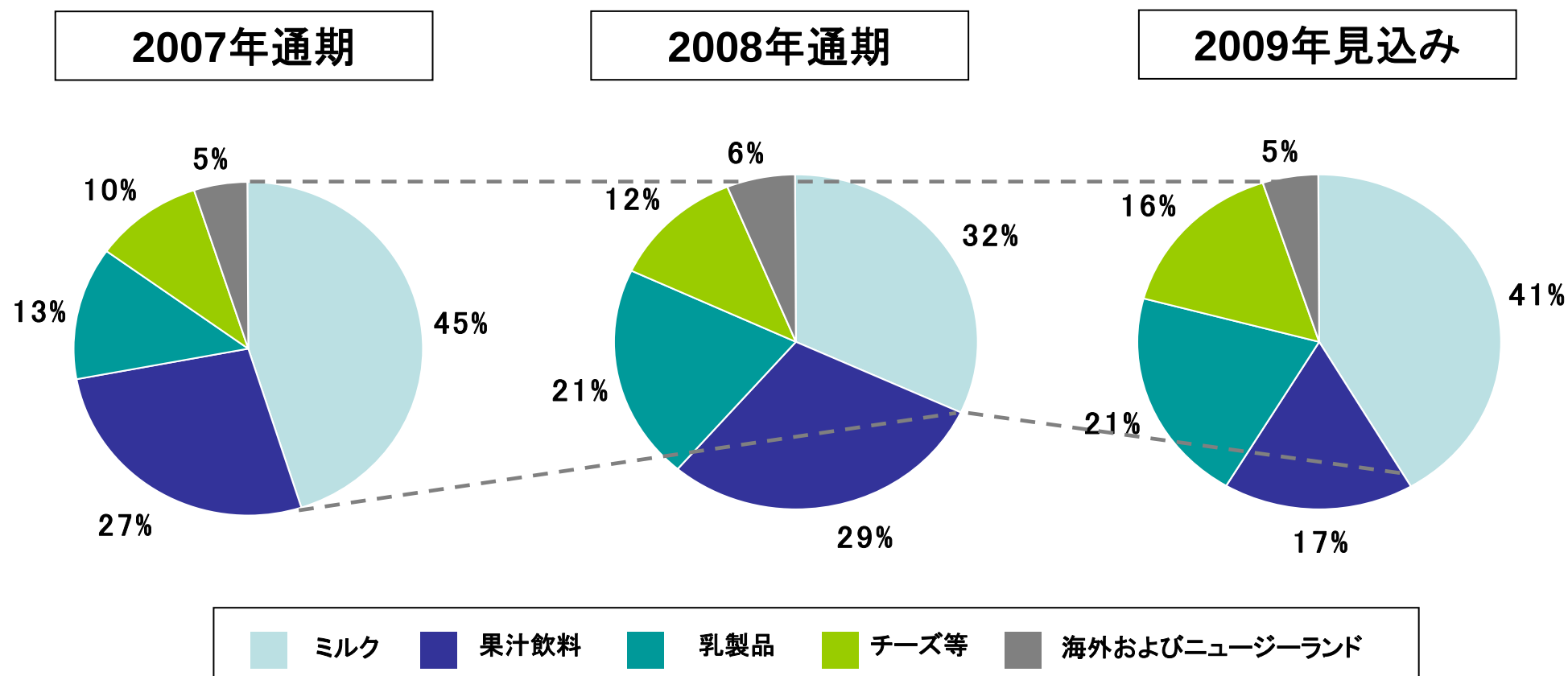
ナショナルフーズ(+DF社)セグメント別 2009年通期見込み

	2009年	2008年	差	コメント
全体				単位:販売数量 百万リットル、純売上高 A\$m (2008年通期実績にはデアリーファーマーズ社を含まず)
販売数量	2,115	1,495	620	
純売上高	3,284	2,124	1,160	
ミルク				・ミルクコストは安定化しつつあるが引き続き消費者の低価格商品移行の動向を見つつNB・PB双方において計画された値上げを行う。 ・フレーバーミルクは地域ごとにブランド強化策を図っていく。
販売数量	1,364	864	500	
純売上高	1,594	973	621	
果汁飲料				・長期的な視野からBerriのマスターブランド化を推進。商品ラインアップ充実を図る。 ・引き続き販促費削減と販売シェア維持のバランスをとっていく。
販売数量	423	443	-20	
純売上高	486	497	-11	
乳製品				・ヨープレート(オリジナル・ライト)ブランドのパッケージとレシピをリニューアル。 ・デアリーファーマーズ社のブランドとの棲み分けによりポートフォリオの強化を図る。 ・一部スーパーでの棚割り改善を図る。
販売数量	181	84	97	
純売上高	517	276	241	
チーズ等				・エブリディとスペシャリティチーズ事業に分けて事業改善を図る。 ・一部スーパーでの棚割り改善を図る。
販売数量	64	22	42	
純売上高	506	226	280	
海外およびニュージーランド				・東南アジア市場でジュースドリンク(低果汁の飲料)の新商品を上市し、現地製造による事業拡大を図る。
販売数量	82	82	0	
純売上高	181	152	29	

※管理会計ベース

セグメント別 貢献利益（Brand Contribution）構成比推移

■ 09年度見込み：生乳価格の安定化も貢献しミルクセグメント利益はさらに回復、逆に果汁飲料の貢献が低下。



ライオンネイサン 業績概況

2009年第2四半期(2008年10月－2009年3月)業績 (単位：A\$m)

主に豪州ビール部門の販売価格上昇・プレミアム商品へのシフトにより、原材料価格上昇・設備投資増による減価償却費増を吸収し、5期連続の増益(EBITベース)を達成

■ Net Revenue (売上高): 1,185.3 (前年比 +5.7%)

- ・豪州ビール部門は、販売価格上昇、プレミアムへのシフト、生ビール好調のほか、Boagsの貢献で11.3%増と全体の成長を牽引
- ・NZ部門は、ワイン・RTDの販売数量増も小売部門の販売減により微減
- ・ワイン部門は、供給過剰など厳しい事業環境の中、自社品では売上げ維持も販社部門売上げが大幅減、減収

■ EBIT: 307.0 (前年比 +8.4%)

- ・豪州ビール部門の堅調な伸びが、原材料価格上昇・減価償却費増を吸収、全体を牽引
- ・NZ部門は費用管理等により現地通貨ベースで増益も、NZ\$安により豪ドル換算では減益
- ・ワイン部門は、景気後退に加え、農産物時価評価(SGARA)の影響もあり、大幅減益

■ NPAT (当期純利益): 178.0* (前年比 +6.1%) *特別損益等を除く

特別損益を含めると、NPATは176.0(前年比+6.9%)。 本年はCCA買収提案費用、前年はBoags社買収に伴うリストラ費用を計上。

■ 事業別概況

- ・豪州部門: 販売数量 +4.6% (Boags社貢献分除く: +0.5%)、売上高 +11.3%、EBIT +12.7%* *特別損益等を除く
- ・NZ(ビール、ワイン、RTD他)部門: 販売数量 ▲0.4%、売上高 ▲0.6%、EBIT +3.1% (NZ\$ベース)
- ・ワイン部門: 販売数量 +3.1%、売上高 ▲8.0%、EBIT ▲66.7%

2009年通期(2008年10月－2009年9月)業績ガイド (LN公表ペース、単位：A\$m)

■ NPAT (当期純利益): 305～315

Boagsブランドの販売拡大、イースターの4月ずれ込み、前年4Qの投資反動等により、下期は上期以上の前年比増を見込む。年初のNPATガイドを上方修正(300～315→305～315)

※ キリン社連結業績見込みには、2008年実績値に新為替予想のみを反映 (次頁参照)

ライオンネイサン キリン社連結決算への取り込み

(単位:億円)

2009 2Q	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	749	189	155	111	51
ブランド償却費		▲ 24	▲ 24	▲ 24	▲ 11
のれん償却額		▲ 22	▲ 22	▲ 22	▲ 17
差引調整後	749	143	108	64	22
2008 2Q	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	1,100	276	235	161	74
ブランド償却費		▲ 36	▲ 36	▲ 36	▲ 17
のれん償却額		▲ 24	▲ 24	▲ 24	▲ 18
差引調整後	1,100	214	174	100	39

期中平均レート(LN社P/Lに使用)

2009 2Q 1A\$ = 63.20円

2008 2Q 1A\$ = 98.11円

※ キリン社連結業績見込みには、2008年実績値に新為替予想のみを反映

2009通期見込み	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
LN損益計算書	1,465	348	278	191	88
ブランド償却費		▲ 54	▲ 54	▲ 54	▲ 25
のれん償却額		▲ 46	▲ 46	▲ 46	▲ 35
差引調整後	1,465	247	177	89	27

予想平均レート(LN社P/Lに使用)

2009通期予想 1A\$ = 70.0円

※ブランド償却：LN社がM&A等で購入した無形固定資産の償却額。評価替え、為替変動の影響を受ける

※のれん償却：株式購入時のプレミアム510億円の20年償却分(約25億円/年)

国際会計基準適用のLN社では2006年度より営業権償却を停止しているが、キリン社連結上は継続償却

※LN損益計算書については、営業損益の一部を連結上特別損益に組替えており、上記数値は組替後である

※LN社は業績予想非公表のため、2008年実績外貨額に為替予想のみを反映

ライオンネイサン社の完全子会社化について

背景と狙い

- 「質的拡大」へのシフト、ならびに「食と健康」領域でアジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指すKV2015に合致
- 豪州における酒類、乳製品、清涼飲料を含む広範な事業基盤を強化
- キリングroupのオセアニア地域全事業に関する戦略的レビューを実施し、豪州・ニュージーランドにおける潜在的な成長性を洗い出すとともに、事業の効率化を実施。また、オセアニア地域全体にわたり、LN社の高い経営ノウハウを有効活用

取引概要

- 5月10日、LN社との間で麒麟社未保有の全株式(発行済株式総数の53.87%)取得に関する買収履行契約を締結
- 「スキーム・オブ・アレンジメント」により1株につき11.50豪ドルの買付価格を提案、買収に要する資金は約33億豪ドル(約2,300億円*)
- 買収資金は外部借入れにより調達予定

麒麟社連結 決算への影響

- のれん代は約31.9億豪ドル(約2,200億円*)、年間約110億円* → 暫定値につき、今後変更の可能性あり
既存ののれん償却費(100億円)と合わせたのれん償却費は年間約210億円* → 同上
- 会計上の利益は減少も、LNキャッシュフローへの100%アクセスにより、麒麟のキャッシュフローは大幅に改善

スケジュール (予定)

豪州公正取引委員会による認可: 2009年6月29日
豪州証券投資委員会へ「スキーム・ブックレット」提出: 2009年7月16日
LN社株主へ「スキーム・ブックレット」発送: 2009年8月
臨時株主総会: 2009年9月17日
豪州証券投資委員会へ裁判所認可提出(スキーム発効日): 2009年10月7日
基準日(スキーム対象株主確定日): 2009年10月14日
株式取得予定日: 2009年10月21日

サンミゲル 業績概況

SMC社業績（キリン社連結第2四半期決算取り込みベース）

2006年度よりSMC社（決算期：12月）の決算取り込み時期を変更。
2009年第2四半期、2008年第2四半期はそれぞれ同社2008年10月-2009年3月、2007年10月-2008年3月を基礎として算出

2008年10月-2009年3月 1ペソ=1.99円（期中平均レート）

売上高： 877.78億ペソ（約1,746億円）

営業利益： 73.59億ペソ（約146億円）

当期純利益： 11.89億ペソ（約23億円）*

*2008年1月のJ.Boag社売却による特益や、為替差損益減少により純利益は大幅減

2007年10月-2008年3月 1ペソ=2.61円（期中平均レート）

売上高： 838.49億ペソ（約2,188億円）

営業利益： 63.48億ペソ（約165億円）

当期純利益：125.92億ペソ（約328億円）

SMC社1Q業績概況（2009年1月-3月）

SMC社の2009年1Q（1月-3月）は、国内ビール（SMB社）、洋酒、パッケージング、食品事業が前年比増収増益。連結売上高は8%、営業利益は11%の増収増益。一時所得や為替差損益の影響を除いた純利益は25%増。

国内ビール（SMB社）は増税による売上原価増や販売数量減も、2008年4月の販売価格引き上げとコスト削減等により増収増益。2009年通期では、fiesta seasonや2010年大統領選などの影響でさらなる増収増益を見込む。海外ビール（San Miguel Beer International）は中国などでの販売数量減により減収減益。

（参考）SMC社主要グループ会社別売上高・営業利益推移 FY2008 1-12月

全主要部門で売上高が増加、連結ベースで前年同期比14%の増収。営業利益は海外ビール事業が貢献し、前年同期比で26%の増益。当期純利益は、非中核事業の売却、SMB社のIPOにより124%増。

単位：連結、Beer International以外は百万ペソ

	構成グループ	2008	2007	Change
売上高	連結 (PHP billion)	168.0	148.0	+14%
	San Miguel Brewery	48,787	44,139	+11%
	Beer International (US\$ million)	282.9	228.9	+24%
	Ginebra SM	15,428	13,111	+18%
	San Miguel Food	73,233	63,806	+15%
	San Miguel Packaging	19,862	18,778	+6%

営業利益	連結 (PHP billion)	14.8	11.7	+26%
	San Miguel Brewery	15,636	12,273	+ 27%
	Beer International (US\$ million)	1.97	(4.35)	+145%
	Ginebra SM	431	643	-33%
	San Miguel Food	2,011	2,822	-29%
	San Miguel Packaging	1,369	425	+222%

当期純利益	連結 (PHP billion)	19.3	8.6	+ 124%
-------	------------------	------	-----	--------

サンミゲル キリン社連結決算への取り込み

2009年キリン社連結決算には、2008年10月から2009年3月までのSMC社、2009年4月から2009年9月までのSMB社を取り込み予定

(単位:億円)

2009 2Q	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	1,746	146	30	23	* 4
持分法投資損益*			* 4	4	4
投資差額償却額			▲ 10	▲ 10	▲ 10
差引調整後			▲ 6	▲ 6	▲ 6
2008 2Q	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結当期純利益
SMC損益計算書	2,188	165	308	328	* 65
持分法投資損益*			* 65	65	65
投資差額償却額			▲ 10	▲ 10	▲ 10
差引調整後			54	54	54

期中平均レート(SMC社P/Lに使用)
2009 2Q 1PHP= 1.99円
2008 2Q 1PHP= 2.61円

2009通期見込み (SMB社2009年4-9月)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結当期純利益
SMB損益計算書	459	140	139	90	* 43
持分法投資損益*			* 43	43	43
ブランド償却費			▲ 7	▲ 7	▲ 7
投資差額償却額			▲ 29	▲ 29	▲ 29
差引調整後			7	7	7

予想平均レート(SMB社P/Lに使用)
2009通期予想 1PHP = 2.00円

※ブランド償却費:SMB社が所有するブランド等のKH持分(48.304%、約309億円)の20年償却分(約15億円/年)の半期分(約7億円)
 ※投資差額償却額:SMC社については、株式取得時(2002年、2005年)のプレミアム428億円の20年償却分(約21億円/年)の半期分(約10億)
 ※投資差額償却額:SMB社については、株式取得時(2009年)のプレミアム1,160億円の20年償却分(約58億円/年)の半期分(約29億)
 ※2006年度よりSMC社の決算取り込み時期を変更。2009年第2四半期、2008年第2四半期はそれぞれ同社2008年10月-2009年3月、
 2007年10月-2008年3月を基礎として計上
 ※SMB社は業績予想非公表のため、2009年通期見込みは、2008年4月から2008年9月までの実績外貨額に為替予想のみを反映

サンミゲルビール社株式取得について

背景と狙い

- サンミゲル(SMC)社がインフラ事業への本格的な参入を進めていることから、分社化により設立されたサンミゲルビール(SMB)社の株式を新たに取得
- ▶ アジアにおける酒類事業の強化
 - ▶ アジア・オセアニアにおける総合飲料グループ戦略の推進
 - ▶ 高収益事業の取り込み

取引概要

- 5月22日までにSMB社発行済株式総数の48.304%を658.1億ペソ(約1,316億円*)で取得
- 同時に、SMC社の保有全株式を、396.1億ペソ(約792億円*)でQ-Tech Alliance Holdings社に売却、売却金額全額をSMB社株式購入資金の一部に当て、残りは外部借入で調達
- 併せて、SMC社海外ビール事業会社のSMB社への売却に関し、優先交渉権を獲得

キリン社連結決算への影響

- SMB社に関する投資差額は約1,160億円*、年間償却額約58億円*(20年償却)
ブランド償却費は年間約15億円*
(参考:2008年度SMC社投資差額償却額は年間約21億円)
→会計上の利益は減少も、配当増加によりキャッシュフローは増加の見込み
- SMC社株式売却につき、関係会社株式売却損約210億円を第2四半期に計上
- 2009年連結決算には、2008年10月から2009年3月までのSMC社、2009年4月から9月までのSMB社を持分法適用会社として取り込み

《参考:サンミゲルビール社概要》

サンミゲル社の国内ビール製造販売会社、フィリピンのビール市場で約95%のシェアを保有

売上高**: 約488億ペソ(約976億円*)

従業員: 2,644人 2008年末時点

営業利益**: 約156億ペソ(約312億円*)

主要ブランド: San Miguel Pale Pilsen, San Mig Light, Red Horse, Gold Eagle

当期純利益**: 約100億ペソ(約200億円*)

ビール製造拠点: 計5工場

*1ペソ=2.0円換算 **2008年12月期

参考資料

- 医薬パイプライン
- のれん一覧表
- 為替(豪ドル)インパクト

医薬事業：パイプライン（フェーズⅡ以上）

領域	名称	開発段階		適応症	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん・血液	KW-0761	PhⅡ	米国 PhⅠ	悪性腫瘍（血液がん）	注射	自社	ヒト化抗体 （がん領域以外のすべての疾患について日本・中国・韓国・台湾を除く全世界における独占的開発/販売権を米国Amgen社へ2008年3月に導出）
	KRN321 ネスブ	申請中 2008.11		☆がん化学療法による貧血	注射	Kirin-Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として 2007年7月より発売中
	AMG531	PhⅢ		血小板減少症 （特発性血小板減少性紫斑病）	注射	Kirin-Amgen	血小板増殖刺激因子製剤 （契約に基づき開発は アムジェン・デベロップメント㈱が実施）
	KW-2246	PhⅢ		がん性疼痛	舌下錠	Orexo	
	KRN125	PhⅡ		好中球減少症	注射	Kirin-Amgen	持続型G-CSF製剤
	AGS-003		米国・カナダ PhⅡ	腎細胞がん	注射	Argos	樹状細胞医薬品
	AGS-004		カナダ PhⅡ	HIV	注射	Argos	樹状細胞医薬品
腎臓	PB94 フォスブロック/レナジェル		中国 申請中 2008.6	高リン血症	経口	中外製薬	本邦：発売中
	KRN321 ネスブ	申請中 2008.12	中国PhⅡ	☆ 腎性貧血 （透析施行前） ☆ 腎性貧血 （透析施行中）	注射	Kirin-Amgen	持続型赤血球造血刺激因子製剤 日本で透析施行中の腎性貧血治療剤として 2007年7月より発売中
免疫・アレルギー	KW-4679 アレロック		中国 申請中 2008.7	アレルギー	経口	自社	本邦：発売中
	Z-206 アサコール	PhⅢ		炎症性腸疾患 （クローン病）	経口腸溶製剤	ゼリア新薬	ゼリア新薬と共同開発
中枢神経系	KW-6002	PhⅡb	米国 申請中 2007.4	パーキンソン病	経口	自社	☆ 単剤投与（Mono-Therapy）での 臨床試験はPhⅡa（日本）
	KW-6500	PhⅡ		パーキンソン病	注射	Britannia Pharma.	

2009年2月以降進捗した開発品目（地域・ステージ・申請・承認・発売 等）

☆ 適応拡大

（2009年7月末現在）

医薬事業：パイプライン（フェーズⅠ）

領域	名称	開発段階		適応	剤型	自社or導入	備考
		日本	海外				
がん・血液	KW-2450		米国 Ph I	悪性腫瘍	経口	自社	
	KRN654	Ph I / II		血小板増多症	経口	Shire	
	KW-2449		米国 Ph I / II a	悪性腫瘍	経口	自社	
	KW-2478		欧州 Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	
	ARQ 197	Ph I		悪性腫瘍	経口	ArQule	
	KRN330		米国 Ph I / II a	悪性腫瘍	注射	自社	完全ヒト抗体
	BIW-8962		米国 Ph I	悪性腫瘍	注射	自社	ヒト化抗体
免疫・アレルギー	NU206		豪州 Ph I	炎症性腸疾患	注射	ARCA biopharma (ID Nuvelo)	
	ASKP1240		米国 Ph I	臓器移植時の拒絶反応	注射	自社	完全ヒト抗体 アステラス製薬と共同開発
循環器	KW-3902	Ph I		腎機能低下を伴う急性心不全	注射	自社	
その他	KW-3357	Ph I		汎発性血管内凝固症候群 先天性アンチトロンビン欠乏に 基づく血栓形成傾向	注射	自社	遺伝子組換えアンチトロンビン製剤
	KRN23		米国 Ph I	低リン血症性くる病	注射	自社	完全ヒト抗体

【上記以外のパイプライン】

フィリピンにおいてフィルグラスチム（G-CSF製剤）の承認申請を行っています。

韓国、タイ、香港においてネスブ（持続型赤血球造血刺激因子製剤）の承認申請を行っています。台湾においては許可を取得しました。

台湾、韓国においてレグパラ（二次性副甲状腺機能亢進症治療剤）の承認申請を行っています。マカオ、香港においては許可を取得しました。

2009年2月以降進捗した開発品目（地域・ステージ・申請・承認・発売等）

☆ 適応拡大

中止品目

領域	名称	開発段階		適応	剤型	自社or導入	中止理由
		日本	海外				
その他	KW-7158	Ph II a		腸疾患 (過敏性腸症候群)	経口	自社	開発を継続するための評価基準に合致しないことが 判明したため。

のれん等償却 2009通期 <期央見通し>

(億円)

	投資差額				営業権			ブランド			償却計
	取得年	償却額	未償却 残高	残年数	償却額	未償却 残高	残年数	償却額	未償却 残高	残年数	
LION NATHAN LTD.	1998	25	220	9	9	35	3	50	210	3	86
麒麟ビバレッジ	2006	19	328	17	—	—	—	—	—	—	19
その他		1			—	—	—	—	—	—	1
(計:2006年以前発生分)		47			9			50			107
協和発酵麒麟 ※1	2007	66	1,224	18	—	—	—	—	—	—	66
National Foods Limited ※2	2007	56	1,092	18	19	380	18	23	452	18	100
J. Boag & Son Pty Limited	2008	11	105	8	—	—	—	4	39	8	15
San Miguel Brewery. Inc	2009	29	1,131	20	—	—	—	7	301	20	36
(計:2007年以降 新規投資分)		163			19			35			218
合計		210			29			86			326

※1:麒麟協和フーズ含

※2:Dairy Farmers 含

為替インパクト(豪ドル)

為替変動(豪ドル)が業績に与える影響(前年同期比概算)

(億円)

	第2四半期	通期	
		修正前	修正後
連結売上高	△930	△1640	△1100
連結営業利益	△70	△120	△100
外貨建貸付*(営業外損益)	130	—	130

参考) 為替感応度: 1円円高 連結売上高△55億円 / 連結営業利益△4億円 / 外貨建貸付△8.5億円*

*当社豪州連結子会社は円貨建グループローン(850mil豪ドル)を有しており、為替レート(AU\$)の変動によって連結決算上為替差損益を計上しています。当取引における為替レート変動による影響額は以下のとおりです。

10円の変動による経常利益への影響額 85億円

為替レート一覧表

(円)

P/L換算レート: 期中平均レート	08年第2四半期	08年通期	09年第2四半期	09年通期予想 (修正前)	09年通期予想 (修正後)
ライオンネイサン	98.11	97.38	63.20	62.00	70.00
ナショナルフーズ	97.59	88.00	68.87	62.00	73.00
B/S換算レート: 期末日レート		08年期末	09年第2四半期末	09年通期予想 (修正前)	09年通期予想 (修正後)
ナショナルフーズ		62.61	77.85	62.00	77.85

補足資料

損益状況（連結）

	平成20年度				平成21年度			
	第2四半期 (実績)		通期 (実績)		第2四半期 (実績)		通期 (予想)	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
売上高 (対前年増率)	10,478	25.3	23,035	27.9	10,604	1.2	23,000	△0.2
営業利益 (対前年増率)	475	10.9	1,459	21.0	401	△15.5	1,250	△14.4
経常利益 (対前年増率)	476	4.3	1,030	△16.5	563	18.4	1,360	32.0
当期(四半期)純利益 (対前年増率)	811	383.0	801	20.2	149	△81.6	600	△25.2
EBITDA ※1 (対前年増率)	1,093	27.6	2,646	24.2	905	△17.2	2,522	△4.7

※1 平成20年度第2四半期実績EBITDA = 1,093 (持分変動利益は除く)

営業利益475+持分法による投資利益29+減価償却費430+のれん償却費99+特別損益59

平成20年度実績EBITDA = 2,646 (のれん一時償却額及び持分変動利益は除く)

営業利益1,459+持分法による投資利益118+減価償却費959+のれん償却額208+特別損益△99

平成21年度第2四半期実績EBITDA = 905

営業利益401+持分法による投資利益37+減価償却費480+のれん償却額110+特別損益△124

平成21年度予想EBITDA = 2,522

営業利益1,250+持分法による投資利益82+減価償却費1,000+のれん償却額220+特別損益△30

売上高明細（連結）

	平成20年度				平成21年度			
	第2四半期 （実績）		通期（実績）		第2四半期 （実績）		通期（予想）	
売上数量（対前年増率）								
酒類	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール・発泡酒・新ジャンル	1,552	△3.3	3,325	△1.8	1,557	0.4	3,277	△1.4
	百万C/S		百万C/S		百万C/S		百万C/S	
飲料 ※1	113	1.0	241	0.5	107	△5.1	235	△2.4
売上高内訳（対前年増率）	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
総売上高	10,478	25.3	23,035	27.9	10,604	1.2	23,000	△0.2
酒類	5,453	△0.5	11,815	△0.7	4,986	△8.6	11,030	△6.6
ビール・発泡酒・新ジャンル	4,423	△1.1	9,597	△1.1	4,087	△7.6	8,940	△6.8
その他の酒類 ※2	797	△5.3	1,734	△6.0	761	△4.4	1,720	△0.9
その他	233	39.5	483	41.7	137	△40.9	370	△23.4
飲料・食品	3,440	54.6	7,166	51.0	3,514	2.1	7,540	5.2
医薬品	696	121.3	1,715	145.3	1,009	44.8	2,050	19.5
その他	887	162.8	2,338	247.9	1,093	23.3	2,380	1.8
バイオケミカル	202	—	591	—	368	82.4	810	37.0
化学品	217	—	671	—	238	10.0	540	△19.6
アグリバイオ	119	△1.1	210	△2.5	92	△22.7	160	△23.9
その他	349	60.6	864	89.5	393	12.9	870	0.6

※1 ナショナルフーズにおける飲料事業の販売数量（平成20年度第2四半期（実績）235,018KL、通期（実績）

442,828KL、平成21年度第2四半期（実績）228,264KL、通期（予想）411,991KL）は含まれておりません。

※2 清涼発泡飲料を含んでおります。

主要費用等（連結）

（単位：億円）

	平成20年度		平成21年度	
	第2四半期 （実績）	通期（実績）	第2四半期 （実績）	通期（予想）
販売促進費	922	2,012	918	} 2,615
広告費	411	720	362	
（販売促進費・広告費のうち）				
キリンビール				
販売促進費	203	476	195	} 793
広告費	210	364	201	
キリンビバレッジ ※1				
販売促進費	525	1,142	520	} 1,176
広告費	68	112	58	
研究開発費	251	540	265	605
減価償却費 ※2	430	959	480	1,000
のれん償却額 ※3	99	223	110	220
金融収支	△87	△164	△42	△125
設備投資額（支払）	626	1,260	510	1,250
キャッシュ・フロー	△74	△275	1,113	770
営業活動	398	1,312	544	1,660
投資活動	△660	△1,693	△360	△860
財務活動	215	266	884	△60

※1 キリンビバレッジ連結の数値（飲料・食品）であります。

※2 ブランド償却費を含んでおります。

※3 投資差額償却額（一時償却を含む）、営業権償却費

貸借対照表の主要増減内容（連結）

（単位：億円）

	平成20年度末	平成21年度 第2四半期末	増減	内容
（資産の部）				
流動資産				
現金及び預金	726	1,856	1,130	・キリンホールディングス及び協和発酵キリンのCP発行による増加 他
受取手形及び売掛金	4,466	3,570	△896	・前年度末が休日による減少 他
固定資産				
のれん	3,439	3,591	152	・豪州連結子会社の為替影響による増加 他
（負債の部）				
流動負債				
支払手形及び買掛金	1,895	1,609	△286	・前年度末が休日による減少 他
コマーシャル・ペーパー	—	1,149	1,149	・キリンホールディングス及び協和発酵キリンのCP発行による増加
1年以内償還予定の社債	441	38	△403	・キリンホールディングスの社債償還による減少
その他	3,309	2,623	△686	・前年度末が休日による未払酒税の減少 他
固定負債				
長期借入金	2,577	2,873	296	・キリンホールディングスの増加 他
（純資産の部）				
その他有価証券評価差額金	374	242	△132	・連結子会社における投資有価証券売却による減少 他
為替換算調整勘定	△887	△425	462	・円安による増加 他

※当年度より比較対象を前年度末（12月31日）としております。

キリングループ連結財務指標ガイド

			平成20年度 (実績)	平成21年度 第2四半期 (実績)	平成21年度 修正前(予想) 2/10公表	平成21年度 通期(予想)
定 量 目 標	売上高(億円)	酒税込み	23,035	10,604	23,000	23,000
		酒税抜き	19,228	8,957	19,300	19,300
	営業利益(億円)		1,459	401	1,210	1,250
	営業利益率(%)	対酒税込み	6.3	3.8	5.3	5.4
		対酒税抜き	7.6	4.5	6.3	6.5
	ROE(%)		8.1	1.6	6.0	6.2
ガ イ ド ラ イ ン	セグメント別 売上高(億円)	酒類	11,815	4,986	10,950	11,030
		飲料・食品	7,166	3,514	7,400	7,540
		医薬	1,715	1,009	2,000	2,050
		その他	2,338	1,093	2,650	2,380
	セグメント別 営業利益(億円)	酒類	1,099	383	900	960
		飲料・食品	64	△64	120	110
		医薬	282	180	280	350
		その他	182	△4	130	60
		消去又は全社	△169	△93	△220	△230
	海外比率(%)	酒税抜き売上高	27	27	24	26
	EBITDA(億円)		※1 2,646	905	2,691	2,522
	のれん等償却 (億円)	①2006年以前発生分	136	50	100	※2 107
		②2007年以降新規投資分	174	88	163	※3 218
		のれん等償却計(①+②)	310	139	264	326
	EPS(円)	のれん等償却②前	※1 25	25	76	85
		のれん等償却後	84	16	60	63
	D/Eレシオ		0.72	0.80	0.69	0.78

※1 旧協和発酵工業との株式交換により発生した持分変動利益726億円を除いた数値で算出しております。

※2 のれん等償却 2006年以前発生分：107

ライオンネイサン86(ブランド償却費50、投資差額償却額25、営業権償却費9)
キリンビバレッジ19(投資差額償却額)他

※3 のれん等償却 2007年以降新規投資分：218

ナショナルフーズ100(ブランド償却費23、投資差額償却額76)
協和発酵キリン及びキリン協和フーズ66(投資差額償却額)
ジェイ・ボーグ・アンド・サン15(ブランド償却費4、投資差額償却額11)
サンミゲルビール36(ブランド償却費7、投資差額償却額29)

平成21年度

(単位：億円)

	酒類		飲料・食品		医薬		その他		消去又は全社		合計	
	第2四半期 (実績)	通期 (予想)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)
減価償却費 ※1	229	487	124	249	34	74	79	170	11	18	480	1,000
のれん償却額 ※2	23	50	53	104	30	59	2	5	—	—	110	220
EBITDA ※3	615	1,455	77	398	241	475	57	232	△86	△38	905	2,522
設備投資	244	510	90	203	48	215	80	189	48	130	510	1,250
研究開発費	24	57	14	31	186	415	27	62	12	37	265	605

※1 ブランド償却費を含む

※2 投資差額償却額、営業権償却費

※3 EBITDA = 営業利益 + 持分法による投資損益 + 減価償却費 + のれん償却額 + 特別損益

主な連結会社別損益 2009年第2四半期実績

平成21年度第2四半期実績

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	連結純利益
キリンビール（子会社） ※1	3,864	185	—	—	—
メルシャン（子会社）	390	△3	△2	△0	△0
ライオンネイサン（子会社）	749	189	155	111	51
ブランド償却費		△24	△24	△24	△11
のれん償却額		△22	△22	△22	△17
差引調整後	749	143	108	64	22
キリンビバレッジ（子会社）	1,787	△38	—	—	—
のれん償却額		△9	—	—	—
差引調整後	1,787	△48	—	—	—
ナショナルフーズ（子会社）	1,242	17	—	—	—
ブランド償却費		△11	—	—	—
のれん償却額		△37	—	—	—
差引調整後	1,242	△31	—	—	—
協和発酵キリン（子会社） ※2	1,947	135	156	69	34
のれん償却額消去		47	47	47	23
のれん償却額		△31	△31	△31	△31
差引調整後	1,947	151	172	84	27
サンミゲル（関連会社）	1,746	146	30	23	* 4
持分法による投資損益 *			* 4	4	4
投資差額償却額 ※3			△10	△10	△10
差引調整後			△6	△6	△6

※1 単社の数値であります。

※2 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の数値であります。

※3 科目：持分法による投資損益

主な連結会社別損益 2009年通期予想

平成21年度予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	連結純利益
キリンビール（子会社） ※ 1	8,624	560	—	—	—
メルシャン（子会社）	870	21	20	9	4
ライオンネイサン（子会社） ※ 2	1,465	348	278	191	88
ブランド償却費		△54	△54	△54	△25
のれん償却額		△46	△46	△46	△35
差引調整後	1,465	247	177	89	27
キリンビバレッジ（子会社）	3,915	55	—	—	—
のれん償却額		△19	—	—	—
差引調整後	3,915	35	—	—	—
ナショナルフーズ（子会社）	2,571	100	—	—	—
ブランド償却費		△23	—	—	—
のれん償却額		△76	—	—	—
差引調整後	2,571	0	—	—	—
協和発酵キリン（子会社）	4,029	326	346	152	76
のれん償却額消去		93	93	93	47
のれん償却額		△62	△62	△62	△62
差引調整後	4,029	357	377	183	60
サンミゲルビール（関連会社） ※ 3	459	140	139	90	* 43
持分法による投資損益 *			* 43	43	43
ブランド償却費 ※ 4			△7	△7	△7
投資差額償却額 ※ 4			△29	△29	△29
差引調整後			7	7	7

※ 1 単社の数値であります。

※ 2 連結財務諸表上組み替えを行っており、上記は組み替え後の数値であります。また、同社は業績予想非公表のため、平成20年度実績外貨額を平成21年度予想値としております。

※ 3 平成20年4月から平成20年9月の実績外貨額を平成21年度予想値としております。

※ 4 科目：持分法による投資損益

酒類売上明細(キリンビール)

	平成20年度				平成21年度			
	第2四半期 (実績)		通期 (実績)		第2四半期 (実績)		通期 (予想)	
売上数量 (対前年増率)	千KL	%	千KL	%	千KL	%	千KL	%
ビール	381	△15.5	867	△13.4	358	△6.2	821	△5.4
発泡酒	378	△0.5	811	△1.6	348	△8.1	745	△8.2
新ジャンル	251	8.2	606	11.5	312	24.0	706	16.5
計	1,012	△5.0	2,285	△3.5	1,018	0.6	2,272	△0.6
RTD	83	5.1	203	1.6	91	9.6	204	0.1
清涼発泡飲料	2	△15.5	5	△15.4	14	497.8	33	487.7
売上高 (対前年増率)	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
ビール	1,558	△13.5	3,567	△11.4	1,472	△5.5	3,390	△5.1
発泡酒	1,147	2.2	2,466	1.4	1,061	△7.5	2,270	△8.0
新ジャンル	658	10.2	1,587	13.7	819	24.5	1,850	16.7
計	3,364	△4.5	7,620	△3.0	3,353	△0.3	7,510	△1.5
RTD	224	4.2	544	2.2	245	9.6	550	2.3
焼酎・洋酒・その他	215	32.7	436	2.8	223	4.0	470	7.5

上記売上数量、売上高には輸出分を含んでおります。

清涼飲料売上明細(キリンビバレッジグループ)

<カテゴリー別販売実績(連結)>

清涼飲料			平成20年度 第2四半期(実績)		平成21年度 第2四半期(実績)				平成20年度 通期(実績)		平成21年度 通期(予想)
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
カテゴリー別	茶系飲料	日本茶	1,391	15%	1,202	13%	△189	86%	2,911	14%	2,400
		烏龍茶	157	1%	155	2%	△2	99%	329	2%	350
		紅茶	1,716	18%	1,772	20%	56	103%	3,763	18%	3,800
		計	3,264	34%	3,129	35%	△135	96%	7,003	34%	6,550
	コーヒー飲料		1,681	18%	1,761	19%	80	105%	3,518	17%	3,700
	果実・野菜飲料		1,176	12%	1,098	12%	△78	93%	2,484	12%	2,200
	炭酸飲料		431	4%	355	4%	△76	82%	926	5%	900
	水		1,784	19%	1,626	18%	△158	91%	3,943	20%	3,700
	その他		746	8%	735	8%	△11	99%	1,731	8%	1,870
	国内市場清涼飲料計		9,082	95%	8,704	96%	△378	96%	19,605	96%	18,920
海外市場	海外市場清涼飲料計		430	5%	372	4%	△58	87%	810	4%	980
総合	清涼飲料計		9,512	100%	9,076	100%	△436	95%	20,415	100%	19,900

<容器別販売実績(連結)>

清涼飲料			平成20年度 第2四半期(実績)		平成21年度 第2四半期(実績)				平成20年度 通期(実績)		平成21年度 通期(予想)
			販売数量	構成比	販売数量	構成比	前年増減	前年比	販売数量	構成比	販売数量
缶容器	缶	ボトル缶を含む	1,999	21%	2,286	25%	287	114%	4,390	22%	4,800
PET容器	大型PET	2L	1,792	19%	1,613	18%	△179	90%	3,947	19%	3,500
		1.5L、1L、900ml、750ml	782	8%	744	8%	△38	95%	1,724	8%	1,600
		大型PET計	2,574	27%	2,357	26%	△217	92%	5,671	27%	5,100
	小型PET	500ml	2,394	25%	2,384	26%	△10	100%	5,363	26%	5,400
		350ml以下	1,103	12%	606	7%	△497	55%	1,952	10%	1,400
		小型PET計	3,497	37%	2,990	33%	△507	86%	7,315	36%	6,800
	PET合計		6,071	64%	5,347	59%	△724	88%	12,986	63%	11,900
その他容器	ワンウェイ・リターナブル罐、紙、ギフト 他		1,012	10%	1,071	12%	59	106%	2,229	11%	2,220
海外市場	清涼飲料計		430	5%	372	4%	△58	87%	810	4%	980
全容器	容器総合計		9,512	100%	9,076	100%	△436	95%	20,415	100%	19,900

医薬品売上明細(協和発酵及びキリンファーマ)

(単位：億円)

	平成20年度		平成21年度	
	第2四半期 (実績)	通期 (実績)	第2四半期 (実績)	通期 (予想)
ネスプ/エスポー	157	399	221	462
グラン/ノイアップ	66	165	76	166
コニール	60	181	110	227
アレロック	51	156	152	264
レグパラ	14	39	29	63
パタノール	6	22	53	76
トピナ	1	6	6	14

実績・予想とも国内仕切価ベース（割戻金除く）の表示であります。

平成20年度（実績）における第1四半期は旧キリンファーマの数値となっております。

おいしさを笑顔に

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

**This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation
or offer to buy or sell securities or related financial instruments.**